

水産試験場が実施しているニシン漁獲物調査において得られた情報について、随時お知らせしています。

石狩湾漁協厚田地区と石狩地区の青年部が、3月28日と4月3日にそれぞれ実施しました「ニシン漁期終了後試験調査」の結果をとりまとめました。前浜において6種の目合（1.6寸、1.8寸、2.0寸、2.1寸、2.2寸、2.3寸）を用いてニシンの試験操業を行いました。

表 採集物の内訳

		1.6寸	1.8寸	2.0寸	2.1寸	2.2寸	2.3寸
厚田 (3月28日)	漁獲重量(kg)	60	133	210	39	-	-
	漁獲尾数	326	630	940	156	-	-
	平均尾叉長(mm)	262	268	275	281	-	-
	平均体重(g)	184	212	223	248	-	-
石狩 (4月3日)	漁獲重量(kg)	120	147	121	100	30	60
	漁獲尾数	777	739	516	406	99	233
	平均尾叉長(mm)	245	263	278	279	293	281
	平均体重(g)	154	199	235	247	304	256

## 【結果】

### 採集状況(右表)

今年度も両地区ともに各目合で多くのニシンが採集され、3月下旬から4月にかけて大規模に産卵が行われていることが確認できました。厚田では2.0寸、石狩では1.8寸の漁獲が最多となりました。

### 魚体と年齢(下図)

漁獲の多かった1.8~2.0寸目で漁獲の中心となったのは4年魚（2014年級）と3年魚（2015年級）でした。2014年級群は今シーズンの漁獲を序盤から終盤まで牽引した発生群ですが、漁期が終わった後も来遊が続いており、2015年級群と相まって産卵群を形成している状況です。これらにくわえ、2年魚（2016年級群）も20cm台前半のサイズ主体で来遊しているようです。

### 成熟状態

漁獲物の成熟状態は2年魚も含めてほぼ完熟でしたが、厚田方面では雌雄ともにヌケも混ざっていました。4月ははじめには新港内で群来も確認されていることから、産卵は間断なく続いているようです。

今回の調査結果からも、現在の網目規制（2.0寸以上）によって2年魚の大半と3年魚の一部が次年度以降の漁獲対象として獲り残されたうえに、操業の早期切り上げが着実に産卵親魚の保護と次世代の生産につながっていることがわかりました。今回も早期切り上げが行われたことで、4年魚や3年魚の取り残しが、来年度は5年魚、4年魚、すなわち漁獲の中心サイズとなって来遊してきます。また、新たに生み出された2018年級群についても相当の産卵量となっていることが期待され、夏の稚魚調査での出現状況を注視したいと思えます。

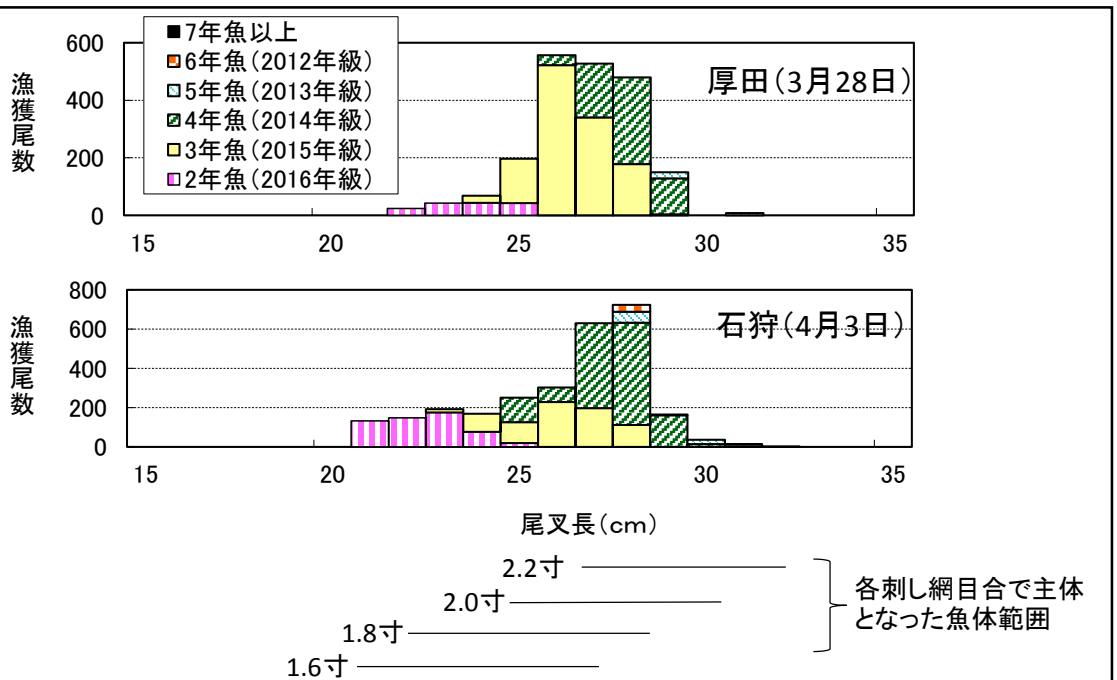


図 平成30年3月28日、4月3日 厚田・石狩地区 年齢別尾叉長組成